

**佐藤 藤三郎(さとう とうざぶろう)**

1935年 山形県上山市狸森生まれ。この村は旧山元村といい、山間地にあり、1戸あたりの平均耕地面積は水田30a、畑40aしかなく、炭やきと養蚕が主な生活手段だった。そして青年のころに稲の栽培を本気で学び、それが叶えた時、祖母が「白いご飯を腹いっぱい食べるようになったのを見れたのが最高の仕上げ」といって目を閉じた言葉が心に残り、忘れられず今も段々の小さな田んぼで老骨を削りながらコメをつくっている。現在、中山間地域等直接支払交付金、集落協定の事務局を担当している。

**渡辺 すみ子(わたなべ すみこ)**

1935年 長野県更埴市(現千曲市)生まれ、地元県立高校卒、農業。水田30a、りんご25a、西洋なし15a、野菜畑10aを経営。96年千曲市(旧更埴市)初代女性農業委員(当初1人)として、選任され頑張ってきた。畑捨棚田貸します制度が始まった年だったので、保全管理組織「名月会」のメンバーとして委託料の会計係を担当、都市と農村の交流をふまえたなかで、地域の活性化をめざし活動、現在「長野県ふるさと水と土指導員」。百姓現役。

**木戸 幸子(きど さちこ)**

1942年 新潟県生まれ。横浜市在住。来年(2009)全国棚田サミット(15回目)が開催される十日町市が故郷。全国一の豪雪と棚田密集地の中で育ったこともあり、何かと棚田情報が気に掛かってならない。棚田3団体と言われる全国棚田連絡協議会、NPO法人棚田ネットワーク、棚田学会の発足当初からの会員。棚田地域が少しでも元気になってほしいと願いながら活動に参加している。

**中山 茂廣(なかやま しげひろ)**

1948年 佐賀県唐津市蔵野生まれ。67年 唐津農業高校卒業と同時に就農。林業を活用した里山での業を模索・実践し現在に至る。04年 県の支援を受け佐賀県原木椎茸研究会を設立し、県学校給食協会への乾燥椎茸納入に努力する。06、07年 蔵野区長を務め、蔵野棚田の「重要文化的景観」選定に向け棚田保存計画の策定に当たる。区長辞任後は棚田の保存と里山業の実践で頑張っている。

**成川 亮治(なりかわ りょうじ)**

1958年長崎県生まれ。82年青山学院大学経営学部卒業。同年(株)リクルート入社。87年、家業である米穀業((株)成川米穀)に従事。会社時代から海、山、川などをフィールドにした自然に親しむスポーツに没頭、その折棚田の景色にふれ感動、棚田に通う。食糧管理法の改正を期に産地との契約を手がける。販売頻度増～顧客満足～生産増の好循環を作って、より多くの人に販売場面から棚田米を紹介していきたい。全国棚田連絡協議会個人賛助会員。NPO法人棚田ネットワーク個人会員。

**山岡 和純(やまおか かずみ)**

1959年東京都中央区築地生まれ。少年時代を東京の下町で過ごし、82年東京大学農学部卒、農林水産省入省。農業土木技官として地方の現場で経験を積むと共に、本省では中山間地域政策などを立案。外務省在オランダ日本国大使館への出向、あるいは山口県庁での地方自治行政などの経験を経て、2003年の世界水フォーラム(京都)を契機に水資源・水利用問題の研究を開始。現在、東京大学特任准教授として「共生社会基盤形成を通じた国土の保全管理学」寄付講座を担当。

**牛島 正美(うしじま まさみ)**

1948年 福岡県生まれ。72年九州大学大学院(修士)修了後 農林省入省。90年から3年間の高知県庁勤務等を経て、2001年退職。その後、全国町村会に入り、現在 経済農林部長。学生時代は、ワンダーフォーゲル部に所属し里山歩きで棚田の魅力に触れる。棚田の多い高知県庁勤務後から棚田との係わりが深くなり、全国棚田連絡協議会及びNPO法人棚田ネットワーク共に発足当初からの会員。

お問合せ 棚田学会事務局 〒184-8577 小金井市本町6-5-3(ふるさときゅらばん内)TEL:042-381-6721 FAX:042-383-8614

申し込み用紙

シンポジウムに参加。 懇親会にも参加。(懇親会参加ご希望の方はレ印を付けて下さい。会費5千円)

お名前

所属

住所(自宅・勤務先)

TEL

FAX

e:mail